

渋谷ヒカリエにて「ヒカリエデッキ 壁面アートプロジェクト」大野智史さんによる第1弾作品が、本日公開！

東急株式会社

本日、2021年10月15日(金)、渋谷ヒカリエ ヒカリエデッキ(以下、ヒカリエデッキ)にて「ヒカリエデッキ 壁面アートプロジェクト」第1弾作品が公開されました。



「ヒカリエデッキ 壁面アートプロジェクト」はヒカリエデッキ4階の中間地点にて、渋谷ヒカリエ側の大規模な外壁を使用し、年に数作品、さまざまアーティストの作品を公開するプロジェクトです。

再開発が進む渋谷の真ん中、東急文化会館のDNAを継ぐ渋谷ヒカリエで、アートを通じ、「公共空間の中にも、自由な個人の表現が生かされる場をつくりたい」という思いをもってスタートしました。

プロジェクトの第1弾は小山登美夫ギャラリー所属の大野智史さんによる新作を、高さ約6m×横約12mの大きさを公開します。

ヒカリエデッキは渋谷ヒカリエの北側、東京メトロ銀座線線路の上部に位置する全長約190メートルの歩行者デッキで、「生活文化の情報発信・活動拠点」、「まちに開かれた憩いの場」となること目指し、2021年7月15日にオープンしました。また10月1日には新たなコミュニケーション拠点として、4階アーバン・コアに面した店舗区画に渋谷のコミュニティFM「渋谷のラジオ」初となるサテライトスタジオ「ヒカリエデッキ ラジ公スタジオ」がオープンしました。

本プロジェクトでは、今後も継続的にさまざまなアーティストによるアート展開を実施していきます。

渋谷駅直結のパブリックスペースに誕生した新たなアートプロジェクト「ヒカリエデッキ 壁面アートプロジェクト」にご注目ください。

■大野智史さんからのメッセージ



今は新型コロナウイルスでなかなかイベントには行けない状況ですが、渋谷に樹海の深い森でのレイヴの景色を出現させたくて描きました。

スピーカーから流れる重低音とみなさんがそれぞれの音楽を想像しながら、大きな壁画を楽しんでいただければ光栄です。

ヒカリエデッキの壁画が渋谷の新しいアートスポットとなり、壁画がグラフィティとはまた異なるスタイルで社会に開かれていけば、それは素晴らしいことだと思います。

「ヒカリエデッキ 壁面アートプロジェクト」第1弾 概要

- ・公開日程: 2021年10月15日(金)～2022年2月末まで(予定)
- ・公開場所: 渋谷ヒカリエ ヒカリエデッキ4階
- ・公開作品: 大野智史「樹海でレイヴ」

<大野智史さんプロフィール>

大野 智史(Satoshi Ohno)

1980年岐阜県生まれ。2004年東京造形大学卒業。現在、山梨県富士山麓にアトリエを構え、原生林の中で自らの感覚を研ぎすましながら、自然と人工の対峙と融合、時間を探求する絵画制作を行っています。

主な個展に「Prism Violet」(ホノルル現代美術館、2007年)、グループ展に「『アート・スコープ 2012-2014』—旅の後もしくは痕」(原美術館、東京、2014年)、「リアル・ジャパネスク 世界の中の日本現代美術」(国立国際美術館、2012年)など。作品はビクトリア国立美術館、原美術館、トヨタアートコレクション、国立国際美術館に所蔵されています。

ヒカリエデッキ

ヒカリエデッキは、渋谷ヒカリエの3階および4階に面し、宮益坂と並行して整備された歩行者デッキです。将来的には渋谷駅東西をつなぐ歩行者動線「スカイウェイ」の一部として2021年7月15日に先行してオープンしました。歩行者デッキとしての使用に限らず、キッチンカーの出店やイベントスペースとしての活用、大規模な壁面を使用したアート展開やムービングライトによる光と音の演出より賑わいを創出します。加えて、季節を感じられる植栽やベンチなどを整備し、まちに開かれた憩いの場としてもご利用いただいています。

